

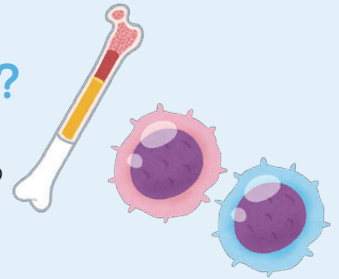
白血病について

Q：白血病とはどんな病気ですか？

A：白血病は血液のがんに分類されます。硬い骨の中心部は柔らかく骨髄と言われ、そこで血球と呼ばれる赤血球、白血球、血小板がつくられます。白血病では血球の元になる細胞ががん化し、全身の骨髄を占拠してしまいます。白血病の細胞が骨髄から血中に流れ出たり、脾臓やリンパ節に入り込んだりして病気を発症します。

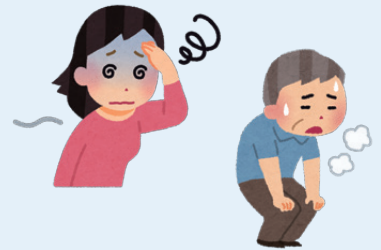
Q：白血病にはどのような種類がありますか？

A：急性と慢性、骨髄性とリンパ性に分けられます。急性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、慢性骨髄性白血病、慢性リンパ性白血病の4つですが、いずれも病状や治療法が異なります。



Q：白血病の症状を教えてください。

A：急性白血病の場合、正常の血球が急激に減って様々な症状が引き起こされます。発熱、貧血による息切れやだるさ、あざや歯肉出血など血が止まらず出血しやすいなどです。慢性白血病の多くは月から年の単位でゆっくりと進行します。初期は無症状のことが多く、健診で白血球が増えていることで見つかる方もいます。



Q：白血病の治療法にはどのようなものがありますか？

A：抗がん剤治療（化学療法）が基本になります。急性白血病では無菌室で点滴や輸血をする辛い治療のイメージかもしれませんが、吐き気の予防一つとっても格段に進歩しています。通常の抗がん剤治療の後に、同種造血幹細胞移植（骨髄移植や臍帯血移植など）をする場合もあります。慢性骨髄性白血病では、チロシンキナーゼ阻害薬という抗がん剤を飲み続ければ、多くの方で一生にわたり病気を抑えることができるようになりました。慢性リンパ性白血病の治療も進歩していますが、落ち着いているうちはあえて治療はせず様子を見る場合もあります。

Q：白血病にならないための予防法はありますか？

A：残念ながらありません。タバコやお酒など特定の生活習慣との関連も言われていません。



大越先生から
ひとこと

血液内科
輸血細胞治療部長
おおこし やすし
大越 靖 先生

急性白血病は全世代、若い方やお子さんにも襲いかかります。私は抗がん剤治療や骨髄移植で多くの患者さんを治したいと血液内科の道に入りましたが、最近はお高齢の方も増え、また治療法も進歩し、だいぶ様変わりしました。患者さんの状況によっては抗がん剤ではなく緩和治療をお勧めする場合があります。患者さん一人ひとりに合わせた治療法の選択が大切だと感じています。